



キッチンから、笑顔をつくろう

株主のみなさまへ 第57期 報告書

平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで

株主のみなさまへ

当期の黒字転換を基礎に
顧客目線からの経営を推し進め
利益体質への変革を図ります。



代表取締役社長

井上 強一

クリナップの新企業理念

クリナップは、創業60周年(2009年10月)を契機に、『第二の創業』に向けた新たな一歩を踏み出すべく、新企業理念を年初1月に策定いたしました。これは、創業以来の精神を受け継ぎながら、時代の転換期に対応した大胆な変革を推し進めていくための、新たな経営のガイドラインです。

■ 新企業理念

創業者理念「五心」

- 一、創業の心
- 一、親愛の心
- 一、創意の心
- 一、技術の心
- 一、使命の心

創業者理念 「五心」

企業理念 「家族の笑顔を創ります」

行動理念

1. 私たちは、心豊かな食・住文化を創ります
2. 私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます
3. 私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります

新ブランドステートメント キッチンから、笑顔をつくろう

事業としては「キッチンダントツNo.1」をめざす
お客様に対しては「キッチンの代名詞」としての評判をつくる

活動方針

2010年3月期 連結決算ハイライト

- 売上高は前年同期比9.5%減となりましたが、ほぼ予想通りの推移となっております。
- 営業利益は収益体質への変革の取り組みが効果を発揮し、大幅な増益となりました。
- システムキッチン全タイプでシェアの向上を図ることができました。



いまだ厳しい事業環境が続いておりますが、減収ながらも黒字転換を果たすことができました。

当期の事業環境は、前期下半期からの厳しい状況のまま推移しました。新設住宅着工戸数は、2008年12月に前年同月比がマイナスに転じて以降、下降線を辿り、2009年8月（マイナス38.3%）を底に回復の方向には向かっていますが（2010年3月はマイナス2.4%）、当期中は一度もプラスに転じることはありませんでした。この状況を反映し、住宅設備機器業界の出荷数は、システムキッチンをはじめ

全分野で前期を大きく下回ることとなりました。

こうした厳しい環境の中、当期の取り組みにおいて当社は、『利益体質への変革』を第一の経営方針に掲げ、販管費の徹底した削減、戦略的な人員配置や拠点設置の実施など、損益分岐点を押し下げる構造改革を実行いたしました。その結果、当期は、9.5%の減収となる中で黒字転換を果たすことに成功いたしました。

当社の一貫したモノづくりの姿勢に対する再評価が拡大したことなどから、シェアをさらに高めることができました。

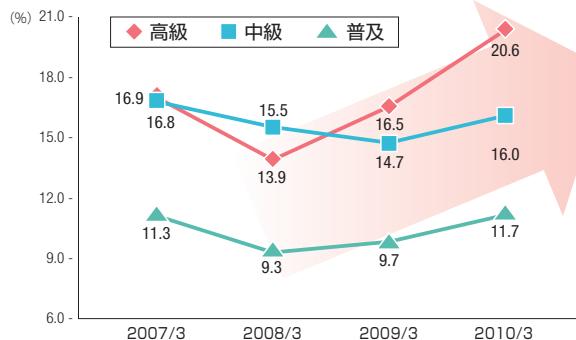
当期における第二の経営方針として当社は、『付加価値創造による利益確保』掲げ、より付加価値の高い主力商品の開発・提供と、より顧客目線に立ったサービスやコミュニケーション施策の展開・強化を図ってきました。その結果、当社は、主力のシステムキッチンにおいて、高級・中級・普及・その他（特注）の全タイプの業界シェアを高めることができました。

主力商品の付加価値を高める取り組みは、当期だけでなく、この3年間継続して計画的に行ってきたことです。2007年9月の高級タイプ「S.S.」のフルモデルチェンジを皮切りに、中・高級タイプ「クリンレディ」、普及タイプ「ラクエラ」、コンパクトタイプ「コルティ」と、全ラインナップの充実及び拡充に努めてきました。「S.S.」と「クリンレディ」については、機能を絞ってお買い求めやすい価格設定とした「ライトパッケージ」を品揃えし、さらに当期はキャンペーン価格により需要を喚起するなど、中・高級タイプ

の拡販体制の強化も行ってまいりました。

また、サービス・コミュニケーション施策においては、『キッチンから、笑顔をつくろう』という新ブランドステー

■ システムキッチンにおける当社の業界シェア推移



株主のみなさまへ

トメントのもと、全国のショールームを基点に、料理教室やキッチンお掃除教室などユーザー目線に立ったイベントの展開に力を注いでおります。これを通じて、クリナップのモノづくりの姿勢や、当社商品の魅力などをご理解いただき、これが、クリナップファンの拡大と実売に、確実に繋

がってきているものと考えております。

当社商品のシェア回復・向上は、これまでの3年間、「顧客目線」を基点とした取り組みを、ぶれることなく追求してきた成果であると考えております。

「顧客目線」からの経営をさらに極め、 “The Kitchen Company”としての企業価値の向上に邁進してまいります。

住宅関連業界は今、かつてない業界再編の嵐が吹き荒れております。2000年4月に「住宅品質確保の促進等に関する法律」が施行され、その後、パワービルダーの台頭などによって住宅価格のデフレが進行しました。また、2007年6月には「改正建築基準法」が施行され、2008年9月には「リーマンショック」が大幅な景気後退を引き起こしました。この約10年間で、住宅関連業界は非常に大きな縮小圧力を幾度にもわたって受け、多くの企業が徐々に淘汰されてきました。

しかし、この間も当社の経営は、変わることなく顧客目線を重視して「より確かな商品」の開発・提供に専念してまいりました。これにより、現在、業界内での当社の評価が改めて高まりをみせております。業界シェアの向上という数字

に表れてきているだけでなく、営業の現場でも、この変化を強く感じ取ることができるほどの状況になってきております。

これまでの当社の経営姿勢は間違っていなかったと全社員が今、確信を持つとともに、今後の経営においても、「顧客目線からの経営」を基礎としていくことで、全社員がベクトルを一つにしております。

2011年3月期は、当期の黒字転換により利益体質の基礎が整ったことを受け、これまで追求してきた「顧客目線」からの経営をさらに極め、“The Kitchen Company”としての企業価値の向上に邁進してまいります。

株主の皆様には、引き続き当社の経営にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年3月期
経営基本方針

メインテーマ

“The Kitchen Company”への邁進

サブテーマ

顧客目線からの経営を基礎とした利益体質への変革

特集：“The Kitchen Company”としての取り組み～ 体験型ショールームの展開



笑顔でお客様をお迎えする

新しいクリナップ・ショールームへ・・・

新築やリフォームを計画されているお客様が、お気に入りのシステムキッチンやシステムバスルームを選ぶために訪れる場所。

そのような従来からのショールームの在り方に加え、当社では、お客様との出会いの機会をさらに創造しようと、様々な試みを行っています。

新宿ショールームでは、2008年10月より、当社が運営する食と暮らしの情報サイト「Dreamia Club (ドリーミアクラブ)」のショッピング・ブースを開設しています。

また、実際に当社のシステムキッチンが体感できるパーティースペースも、新宿ショールームを第一号として全国主要都市ショールームへの設置を推進しています。こうしたスペースを活用した料理教室の開催が、規模は様々ですが、機器類の機能紹介も含めた形で、全国ショールームで継続的に行われています。



「Dreamia Club (ドリーミアクラブ)」のショッピング・ブースの品揃えは当初、キッチン関係グッズと、オーガニック・ワインを主とする商品アイテムでしたが、現在では、バスグッズも含めた暮らし関連326、フード&ドリンク96、それにキッチン関連521、合計943アイテムを取りそろえ、お客様にお勧めしています。ちなみに、いま一番人気は、アメリカ料理協会のキッチンミトン部門で3年連続金メダル受賞の「ダンカン ミトン」です。

2010年4月に、当社と業務協力関係にある日本農産工業の「ヨード卵・光」を使用したお菓子づくりの料理教室が、新宿ショールームのパーティースペースを使って開催されました。この催しは、ドリーミアクラブが応援する、ご自宅を中心に食と食空間に関連するサロン(教室)を主催される「サロネーゼ」の方々を対象に募集し、「ラトリエ・ドゥ・シュクル」のオーナーシェフ白石氏の講義と実習により実現したものです。システムキッチン「S.S.」を使用した白石氏の実演の後には、パーティー・テーブルを囲み、楽しい会食の時間がもたれました。



是非一度、お近くの
当社ショールームへ
おこしください。



ホームページから

<http://www.cleanup.co.jp/>
「ショールーム案内」をクリック



お電話でのお問合せ

TEL.03-3894-4771 (大代表)にて
最寄のショールームの電話番号をご案内いたします。

主なトピックス

新商品関連 ①

ステンレスシステムキッチン「S.S.ライトパッケージ」



S.S. ライトパッケージ

ステンレスシステムキッチン「S.S. ライトパッケージ」のバリエーションが増え、さらにお求めやすく！

厳選した高級ステンレス素材「18-8ステンレス」をすみずみにまで採り入れたステンレスシステムキッチン「S.S.」。その高品質を、より多くの人に体感していただきたいと考え、お求めやすい価格でご用意したのが「S.S.ライトパッケージ」です。2010年6月1日発売の新「S.S.ライトパッケージ」は、間口・高さのバリエーションを増やし、価格も従来型より最大15万円、さらにお求めやすいタイプとして生まれ変わりました。(1型間口255cm標準のプランの場合、税抜き)

- 特徴①** 間口を6サイズ追加し、対応を拡大強化
- 特徴②** 従来の高さ85cmに、80cm・90cmを追加
- 特徴③** お求めやすい価格設定

新商品関連 ②

家具のようなシステムキッチン「ラクエラ」

好評のシステムキッチン「ラクエラ」をさらに充実

2008年発売以来好評の、家具のようなシステムキッチン「ラクエラ」を、2010年6月よりリニューアルいたしました。扉カラーをこれまでの23色から30色へ、最新のインテリア傾向に合わせた豊富なバリエーションとしました。また価格帯も、従来の「グランドシリーズ」、「コンフォートシリーズ」に加え、新たに「シンシアシリーズ」が登場し、さらにお求めやすくなりました。

- 特徴① デザイン性** 高級家具のようなすっきりしたフォルムで、好みやインテリアに合わせて選べる
- 特徴② 収納力** ラクな姿勢で出し入れでき、背の高い容器もたっぷり入るトール足元収納
- 特徴③ レイアウト** 作業効率向上や家族とのコミュニケーションなど、ライフスタイルに合わせたキッチンレイアウトが選べる



ラクエラ

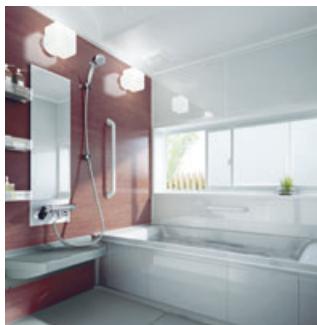
新商品関連③

システムバスルーム「hairo (はいろ)」、洗面化粧台「BTG」

キッチン・バス・洗面のトータルコーディネートが可能に

2009年8月、「第3回キッズデザイン賞／金賞（経済産業大臣賞）」受賞のシステムバスルーム「hairo (はいろ)」。

2010年6月1日より、バスルームをまるごと包む保温仕様「サンドイッチパネル」を全プランで標準装備にしました。また、価格は従来、スタンダードプランのみでしたが、新たにライトプラン、ハイグレードプランを追加して3つのプランをそろえ、ご予算に合わせて、選びやすく、お求めやすくなりました。同時に、スクエアラインが美しい陶器製ボールのシャワー付き洗面化粧台「BTG」を新発売いたしました。4色選べる扉カラーは、システムキッチン「ラクエラ」、システムバスルーム「hairo」とのトータルコーディネートが可能となりました。



hairo (はいろ)



BTG



ラクエラ

サービス関連

体感型ショールームの展開

新たな顧客接点づくりの一環として、
無料の「キッチンお掃除教室」を開催

例年12月には、ショールームへの部品問合せや、キッチンのお掃除方法に関する質問が急増します。そこで、2009年11月から12月にかけて全国ショールームで無料の「キッチンお掃除教室」を開催しました。講師は、当社関係会社であるクリナップテクノサービスの専門社員が担当し、洗剤の種類から、お掃除道具、レンジフードや加熱機器、シンクの掃除の方法などを順を追って説明しました。また、当社のサービスシステムである20年サポートプログラムやクリーニングサービスについてもあわせて紹介し、購入後も安心できるメーカーであることをアピールしました。この「お掃除教室」は大変好評で、その後も年末シーズンに限らず、全国ショールームで継続展開されています。



新宿ショールームでの「キッチンお掃除教室」(2009年12月10日)

連結ハイライト情報／連結セグメント情報

■ 連結財務ハイライト

(百万円)

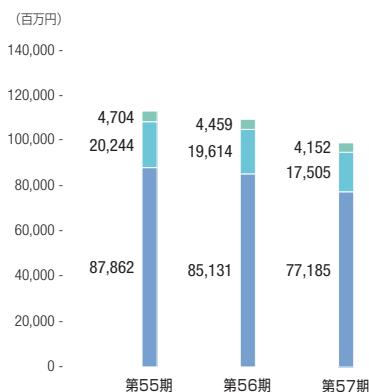
	第55期 平成20年3月期	第56期 平成21年3月期	第57期 平成22年3月期
売上高	112,811	109,205	98,843
営業利益 (損失: △)	△ 1,301	△ 1,100	1,840
経常利益 (損失: △)	△ 1,382	△ 1,163	1,679
当期純利益 (損失: △)	△ 3,078	△ 3,317	2,104
総資産	79,897	76,101	76,289
純資産	55,892	51,264	52,459

■ 部門別売上高 (連結)

(百万円)

	第55期 平成20年3月期	第56期 平成21年3月期	第57期 平成22年3月期
厨房部門	87,862	85,131	77,185
浴槽・洗面部門	20,244	19,614	17,505
その他	4,704	4,459	4,152
合計	112,811	109,205	98,843

■ 厨房部門 ■ 浴槽・洗面部門 ■ その他



厨房部門の主な商品

高級品クラスの「S. S.」シリーズ、中・高級品クラスの「クリンレディ」シリーズ、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「hairo (はいろ)」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。



第57期の営業概況

市場環境

当連結会計年度におけるわが国経済は、一昨年米国金融危機に端を発した世界的な景気後退の影響から、企業収益の大幅な落ち込みや雇用情勢の悪化及び個人消費の低迷が続き、一部の業種で持ち直しの兆しは見られたものの、極めて厳しい状況で推移いたしました。

住宅設備機器業界におきましては、新設住宅着工戸

数が、下期より戸建住宅に幾分回復傾向が見られたものの、年度合計では80万戸を割り込む極めて低い水準に留まり、リフォーム需要も盛り上がりながらも推移したことから、システムキッチン、システムバスルーム及び洗面化粧台とも、前期を大きく下回る出荷数となりました。

業績・成果

このような中で当社グループは、平成21年4月よりシステムキッチン「S.S.ライトパッケージ」の価格を10万円値下げし、また、同年6月にはシステムキッチン「クリンレディ」に新機能“うきうきポケット”を標準装備して発売いたしました。さらに同月、コンパクトシステムキッチン「コルティ」を全面リニューアルいたしました。洗面化粧台では、同年9月に、新素材トップを採用した「ティアリス」を新発売し、平成22年2月には間口対応拡大のための機種追加を行いました。

販売面では、当社の会員登録制組織である「水まわり工房」加盟店や各業種のリフォーム有力企業との連携による「リフォームフェア」や「お料理教室」及び「キッチン

ンお掃除教室」を開催し、需要の喚起と売上の拡大に努めてまいりました。

生産面では、引き続きVE活動(*)を推進し、原価低減に努めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比9.5%減の988億4千3百万円となりました。利益面では、原価低減及び原材料の値下げ等による原価率の低下、さらに徹底したコスト削減による経費の圧縮に努めた結果、営業利益は18億4千万円、経常利益は16億7千9百万円となり、当期純利益は一部繰延税金資産の計上もあったため21億4百万円と大幅増益、黒字転換いたしました。

*VE活動： VE (Value Engineering) は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第57期の部門別の状況

厨房部門ではシステムキッチン「S.S.」が高級品クラスの需要低迷から数量、金額ともに前年同期比二ケタ超の減となり、「クリンレディ」は、数量は同一ケタ減、金額は同一ケタの減となりました。一方、普及品クラスのシステムキッチンは順調で「ラクエラ」は数量、金額ともに前年同期比二ケタ超の増となりました。この結果、厨房部門の売上高は、前年同期比9.3%減の771億8千5百万円となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」が数量は前年同期比一ケタ減、金額は同一ケタの減、「hairo (はいろ)」は数量、金額ともに同一ケタ超の減となりました。洗面化粧台は、普及品クラス及び中級品クラスの新商品が堅調で、数量では前年並みとなったものの金額では前年割れとなりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比10.8%減の175億5百万円となりました。

連結財務諸表

流動資産 流動資産は前期末比17億96百万円増加し496億55百万円となりました。これは主に、売上高の減少に伴い受取手形及び売掛金(1億78百万円)、売上債権のファクタリング譲渡等による未収入金(23億44百万円)、商品及び製品(7億50百万円)が減少する一方で、現金及び預金(51億2百万円)が増加したためです。

注) ファクタリング譲渡: 企業の売掛債権(手形支払いの対象となる売上債権)をファクタリング会社に譲渡、売却して早期に資金化すること。

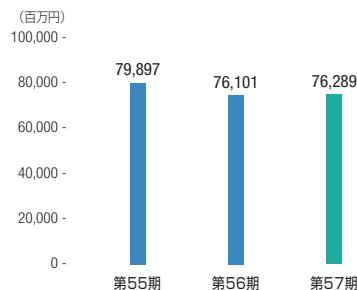
固定資産 固定資産は前期末比16億8百万円減少し266億34百万円となりました。これは主に、投資有価証券が時価評価等により増加した一方で、減価償却による有形固定資産の減少(13億35百万円)、ソフトウェアの減価償却等による無形固定資産の減少(5億46百万円)があったためです。

資産合計 固定資産が減少した一方で流動資産が増加したことから、資産合計は前期末比1億87百万円増加し762億89百万円となりました。

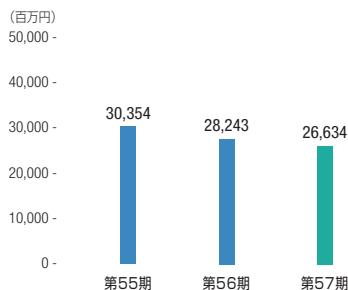
■ 連結貸借対照表の要旨

	第56期 平成21年3月31日現在	第57期 平成22年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	47,858	49,655
現金及び預金	15,166	20,269
受取手形及び売掛金	24,102	23,923
その他	8,644	5,508
貸倒引当金	△ 53	△ 46
固定資産	28,243	26,634
有形固定資産	20,391	19,056
建物及び構築物	9,004	8,534
土地	6,557	6,557
その他	4,829	3,964
無形固定資産	2,855	2,309
投資その他の資産	4,995	5,268
投資有価証券	1,835	2,404
その他	3,372	3,027
貸倒引当金	△ 212	△ 163
資産合計	76,101	76,289

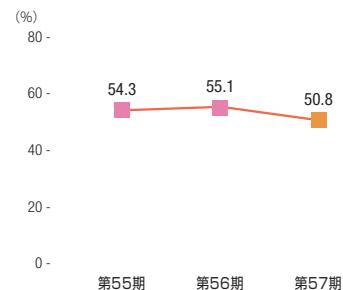
■ 資産合計



■ 固定資産



■ 固定比率





(百万円)

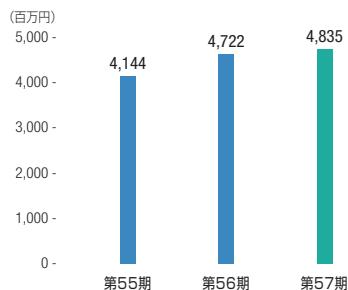
	第56期 平成21年3月31日現在	第57期 平成22年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	18,832	17,470
買掛金	6,057	6,033
その他	12,775	11,436
固定負債	6,005	6,359
長期借入金	2,496	2,555
退職給付引当金	1,022	1,415
役員退職慰労引当金	424	424
その他	2,061	1,964
負債合計	24,837	23,830
(純資産の部)		
株主資本	51,220	52,253
資本金	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351
利益剰余金	25,994	27,624
自己株式	△ 393	△ 989
評価・換算差額等	43	206
その他有価証券評価差額金	47	207
為替換算調整勘定	△ 3	△ 1
純資産合計	51,264	52,459
負債純資産合計	76,101	76,289

流動負債 流動負債は前期末比13億61百万円減少し174億70百万円となりました。これは主に、1年内返済予定の長期借入金が増加(4億83百万円)した一方で、短期借入金の減少(4億30百万円)、仕入減少による信託一括支払い減少等に伴う未払金の減少(10億28百万円)などによります。

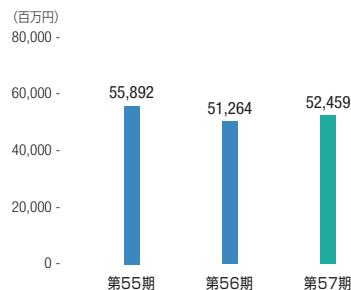
固定負債 固定負債は前期末比3億54百万円増加し63億59百万円となりました。これは主に、退職給付引当金の増加などによります。

純資産合計 純資産合計は前期末比11億95百万円増加し524億59百万円となりました。これは主に、自己株式の取得(5億96百万円)があった一方で、当期純利益の計上などに伴う利益剰余金の増加(16億30百万円)などがあったことによります。この結果、自己資本比率は前期末比1.4ポイント向上し68.8%となりました。

有利子負債



純資産合計



自己資本比率



連結財務諸表

(百万円)

■ 連結損益計算書の要旨

売上高 厨房部門と浴槽・洗面部門の売上高がともに減収となったことから、売上高は前年同期比9.5%減の988億43百万円となりました。

売上原価 原価低減及び原材料の値下げ等により、売上原価率は前年同期比1.6ポイントダウンの66.8%となりました。

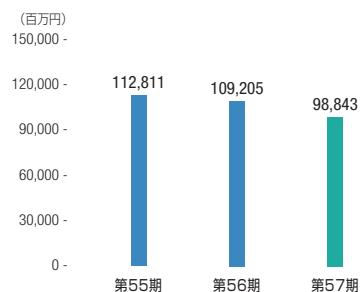
販管費 徹底したコスト削減による経費の圧縮に努めた結果、販管費は前年同期比46億61百万円減少し309億88百万円となりました。この結果、販管費率は前年同期比1.3ポイントダウンの31.4%となりました。

営業利益 減収となったものの、売上原価及び販管費の圧縮に努めた結果、営業利益は18億40百万円となり黒字転換を果たしました(前年同期は営業損失11億円)。

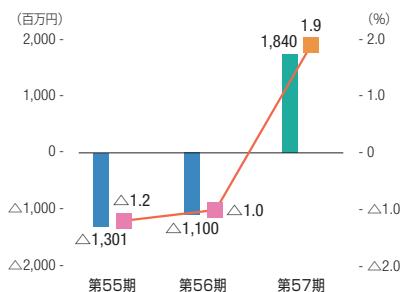
当期純利益 一部繰延税金資産の計上もあったため、当期純利益は21億4百万円と大幅増益、黒字転換となりました(前年同期は当期純損失33億17百万円)。

	第56期 平成20年4月 1日～ 平成21年3月31日	第57期 平成21年4月 1日～ 平成22年3月31日
売上高	109,205	98,843
売上原価	74,655	66,014
売上総利益	34,550	32,829
販売費及び一般管理費	35,650	30,988
営業利益又は営業損失(△)	△ 1,100	1,840
営業外収益	726	551
営業外費用	790	712
経常利益又は経常損失(△)	△ 1,163	1,679
特別利益	13	93
特別損失	850	105
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△ 2,001	1,667
法人税等	1,315	△ 436
当期純利益又は当期純損失(△)	△ 3,317	2,104

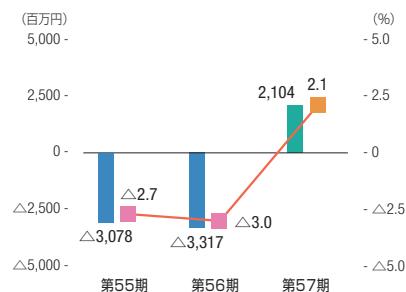
■ 売上高



■ 営業利益・営業利益率



■ 当期純利益・当期純利益率





■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(百万円)

	第56期 平成20年4月1日～ 平成21年3月31日	第57期 平成21年4月1日～ 平成22年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,463	7,468
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,626	△ 1,262
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 507	△ 1,002
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 8	1
現金及び現金同等物の増減額	321	5,205
現金及び現金同等物の期首残高	16,300	16,675
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加額	54	—
現金及び現金同等物の期末残高	16,675	21,881

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によって得られた資金は前年同期比115.6%増の74億68百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益16億67百万円、減価償却費35億56百万円があったこと等によります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は前年同期比51.9%減の12億62百万円となりました。これは主に、生産設備の増設及び改修に伴う支出、顧客管理システム等ソフトウェアへの支出があったこと等によります。

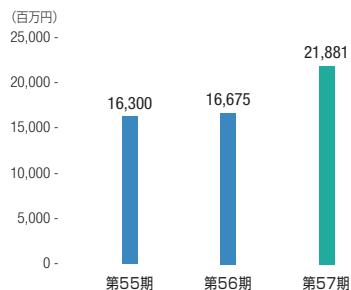
財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は前年同期比97.7%増の10億2百万円となりました。これは主に、長期借入金による資金調達があった一方で、短期借入金による資金の純減、長期借入金の約定返済、配当金の支払い、自己株式の取得があったこと等によります。

現金及び現金同等物の期末残高

これらにより、現金及び現金同等物の期末残高は、前期末比52億5百万円(31.2%)増加し218億81百万円となりました。

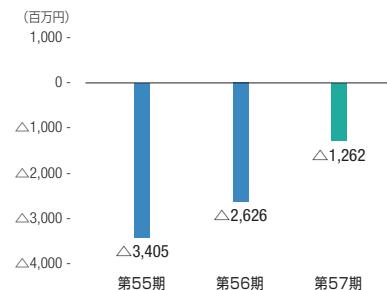
■ 現金及び現金同等物の期末残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



株式関連情報 (平成22年3月31日現在)

■ 剰余金の配当について

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を重要な経営方針の一つと考えております。長期的な安定と成長を実現することにより最大の利益をあげ、安定的な配当を長期的に継続していくことを基本方針としております。

内部留保資金につきましては、新製品生産設備、営業拠点整備、情報基盤整備等の設備投資に充て、効率的な経営による収益力の向

上と資本効率の向上に努めてまいります。

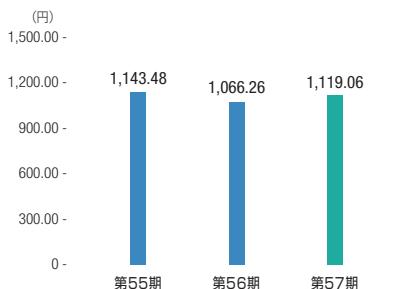
なお、期末配当金につきましては1株当たり5円とし、1株当たり年間10円の普通配当を実施させていただきました。

また、次期の1株当たり配当金は、中間、期末とも5円、年間10円の配当を予定しております。

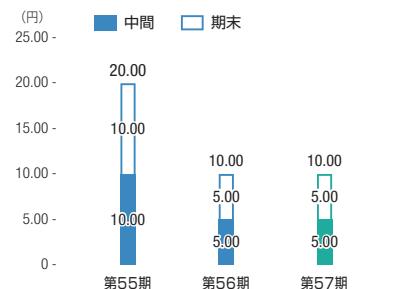
■ 1株当たり当期純利益



■ 1株当たり純資産額

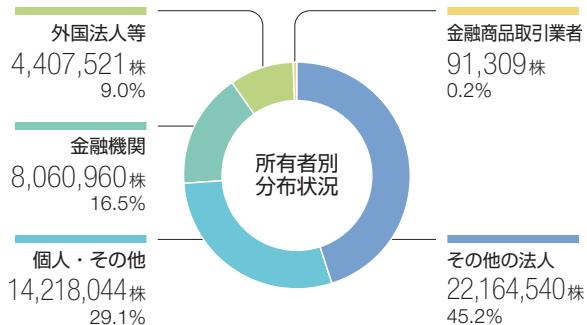


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数	130,000,000 株
発行済株式総数	48,942,374 株
株主数	4,859 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社井上	12,476	26.6
株式会社タカヤス	6,829	14.5
クリナップ社員持株会	2,333	4.9
クリナップ興業会	1,594	3.4
ザバンク オブ ニューヨークトリシティ ジャステック アカUNT	1,405	2.9
クリナップ共進会	1,275	2.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,260	2.6
井上 けよ	1,133	2.4
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,043	2.2
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.4

注) 持株比率は自己株式(2,064,416株)を控除して計算しております。

会社情報

(平成22年3月31日現在)

■ 会社概要

商号	クリナップ株式会社 Cleanup Corporation
本社所在地	〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
電話	03-3894-4771(大代表)
創業	昭和24年10月5日
会社設立	昭和29年10月5日
上場	平成2年2月6日 東証2部上場 平成3年9月2日 東証1部指定
資本金	132億6,734万円
主要営業品目	厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
社員数	2,523名
主な事業所	支社：国内2カ所 支店：国内9カ所 営業所：国内121カ所 海外：香港支店、北京事務所 工場：四倉、鹿島システム、鹿島、湯本、クレート (いずれも福島県いわき市)

■ 役員

(平成22年6月25日現在)

代表取締役社長	井上 強 一	取締役相談役	高 嶋 信
取締役	加藤 亨 一	取締役相談役	川合 和 夫
取締役	小島 輝 夫	常勤監査役	山根 康 正
取締役	小松 裕 恒	監査役	猪狩 昌 行
取締役	鈴木 章	監査役	新谷 謙 一
取締役	松浦 昌 孝	監査役	有賀 文 宣
取締役	佐藤 茂		
取締役	屋代 光 昭		

注) 監査役 新谷謙一及び有賀文宣の両氏は、社外監査役であります。

■ ショールーム (全国105カ所)

リテール事業部	1カ所	北陸支店ブロック	5カ所
札幌支店ブロック	6カ所	静岡支店ブロック	4カ所
東北支店ブロック	13カ所	名古屋支店ブロック	8カ所
北関東支店ブロック	6カ所	大阪支社ブロック	12カ所
東京支社ブロック	19カ所	中四国支店ブロック	15カ所
信越支店ブロック	5カ所	九州支店ブロック	11カ所

お近くのショールームをホームページでご確認ください。

<http://cleanup.jp/>

※株主・投資家のみなさまに向けたIR情報(決算情報等)を掲載しております。
また、「商品情報」をはじめ、ホットな「新着情報」、さらに「生活情報」なども掲載しております。



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人/ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://cleanup.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(お知らせ)

1. 株券電子化によるご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 配当金の口座振込のご指定につきましては、お手続きは配当金振込指定書を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなりました。振込指定のお手続きにつきましては各口座管理機関にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

2. 配当金計算書について

本年から、配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取になられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封いたしております。配当金をお受取になった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

【株式に関するお手続きについて】

■ 特別口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	特別口座の 口座管理機関	お問合せ先
<ul style="list-style-type: none"> 特別口座から一般口座への振替請求 単元未満株式の買取(買増)請求 住所・氏名等のご変更 特別口座の残高照会 配当金の受領方法の指定(*) 	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
<ul style="list-style-type: none"> 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 支払期間経過後の配当金に関するご照会 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿 管理人	[手続き書類のご請求方法] <ul style="list-style-type: none"> 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/

(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

■ 証券会社等の口座に記録された株式

お手続き、ご照会等の内容	株主名簿 管理人	お問合せ先
<ul style="list-style-type: none"> 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 支払期間経過後の配当金に関するご照会 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
<ul style="list-style-type: none"> 上記以外のお手続き、ご照会等 		口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

クリナップ®株式会社

東京都荒川区西日暮里6-22-22 〒116-8587 TEL 03 (3894) 4771

